

ポリオ・プラス活動 15年のあゆみ

—2000～2001年度
R I 第2640地区
地区大会によせて—

地区大会実行委員長
中井義尚
(岸和田東ロータリークラブ)



— 発刊によせて —

ポリオの撲滅を果そう

— 地球上の人々の幸せのために —

国際ロータリー第2640地区

2000～2001年度

ガバナー 水田博史

2000～01年度、21世紀最初の第2640地区地区大会が2001年4月21・22日に岸和田市総合体育館で岸和田東RCのホストで盛大に開催されました。

皆様、その地区大会でポリオ・プラスの年表等が展示されていたのでご覧いただいたでしょうか。この度は、その展示のみでなく皆様にロータリー財団のポリオ・プラス・プログラムを更に認識を深めていただきたいという思いで、「ポリオ・プラス活動15年の歩み」と題して詳述されました。どうか改めてご理解のうえ認識を深めていただきたいと思います。

皆様、ポリオ・プラス（Polio Plus）は、小児マヒを全世界から追放するために、ユニセフ、世界保健機関（WHO）など国連機関と提携推進中のプログラムで、ロータリー財団事業の一つです。ポリオ・プラスと呼んでいます。

ロータリーは、このポリオ撲滅運動における民間団体のリーダーです。ポリオの撲滅は、2005年までにそれを宣言することが、国際ロータリーの最優先事項であります。ポリオ・プラス・プログラムは、ポリオ関係の活動に数年間参加した後、1985年に発足しました。それ以来世界的な募金キャンペーンが始められ、世界中の百万を超えるロータリアンが、ポリオ撲滅活動を成功させるために参加、活動してきました。

1985年以来、国際ロータリーとその協力者の努力の結果、10億人以上もの子どもたちにポリオの生ワクチンの予防接種を行い、1998年には、約五千万人の子供達が全国予防接種日を通じて、ポリオ生ワクチンを受けました。全世界の5歳以下の子どもたちの4分の3に当ります。世界は、6地域に分けられその内「アメリカ地域」「ヨーロッパ地域」「西太平洋地域」の3地域は、すでにポリオの発生件数は0になっております。

「アフリカ地域」「東南アジア地域」「東地中海地域」では発生件数が激減しております。もう少しです。

2005年には地球上からのポリオ撲滅宣言ができることは確実であると確信いたします。2005年まで後4年、ロータリー創立100周年を記念してポリオ撲滅宣言が行われ、大きな喜びと感動を味わいたいと思います。皆様、一緒になって最後の追い込みをしようではありませんか。

はじめに

2000～2001年度R I 2640地区での地区大会が、21世紀としてはじめて2001年4月21日（土）、22日（日）に、岸和田東クラブをホスト、岸和田・岸和田北・岸和田南クラブをコ・ホストとして岸和田市において開催されました。この大会を記念して、水田ガバナーは、ポリオ・プラスのキャンペーンを重要課題の一つとして位置づけられました。大会実行委員長をひきうけました私として、これまで以上にすべてのロータリアンにこのポリオ・プラス活動の理解を深めていただく方法がないものかと思案いたしました結果、1985年ポリオ・プラス活動が発足いたしました当初から、R Iが行ってきた全世界でのポリオ・プラス活動をまとめあげ、会員に提供することが、会員へのポリオ・プラスの理解の大きな一石となると考えました。その結果大会当日には、1985年から2000年までのポリオ・プラス活動を年表としてまとめた表を展示しました。今回それをさらに詳しく解説した小冊誌を作製することにいたしました。（これらはすべてロータリーの友の文の引用であります。）

ロータリーが国際奉仕・社会奉仕の一環として行ってきたポリオ・プラスを、私はロータリー活動として近年もっとも立派なものであると常々考えていましたが、この15年間の世界のロータリアンの実績をみるにつけ、ロータリー活動として一大傑作であるとの思いを深めました。2005年に地球上からポリオの感染者が絶滅したと宣言出来るのは確実と思われ、その快挙が実現される日を心待ちにするものですが、しかし、そのためには2002年までにポリオの発生がゼロであることが確認されなければなりませんここに書きのべてきました現実をみてそれにはなお厳しいものがあると考えられます。

さすれば、これからもなお一層の全ロータリアンの協力が必要となってくるのではないのでしょうか。ロータリアンは、ポリオがまだ多く存在する現実を真摯に見つめ、これまで以上の協力を行わねばならないと思われま

§ ポリオ・プラス活動のはじまり

国際ロータリー（R I）とポリオの出会い、1979年に始まりました。この年フィリピン（5年計画・支援額米貨76万ドル）へのポリオワクチンの輸送が開始されました。1982年R I 理事会は、ロータリー創立100周年までに世界のすべての子供にポリオの予防接種をするという目標を採択しました。この計画は「ポリオ2005」と呼ばれたのですが、後にポリオ・プラスと改称し他の5つの伝染病（麻疹、ジフテリア、結核、百日咳、破傷風）の予防接種も対象に含めることになりました。

1985年、R Iは創立80周年を迎え、ポリオ・プラスを大々的に取りあげることになり、それまで3-H（保健、飢餓追放および人間性尊重）の一部としていたポリオ・プラスを別個のプログラムとしました。その方針に従って1986年からポリオ・プラスの募金活動が始められ、目標を2億3,000万ドルと定められました。募金活動は最初5年間とされ、その間にその目標額を達成し、（その内日本からは49億円）、これに政府補助金を加え、合計2億4,800万ドルがポリオ・プラス基金に組み入れられました。

1988年、WHO（世界保健機関）の総会は、2000年までにポリオ撲滅という目標を採択し宣言しました。R Iはこの宣言を支持し、これを機会にR IはWHO、UNICEFおよびCDC（米国国立疾病対策センター）と互いを主要パートナーと呼ぶ、ポリオ撲滅のための協力関係を結びました。それによって米国、日本などの先進国の援助機関は、この協力体制を後援することとなりました。

1995年、R Iの規定審議会は、関係諸機関と協力、調整した上で、2000年までにポリオを撲滅し、2005年までにその証明をすることを、R Iの最優先事項とする決議を採択しました。この方針に沿って、基金からの援助に関連し、延べ100万人を超えるロータリアンが、これをはるかに上回る数の政府職員やボランティアと協力して先々の現地での撲滅活動を推進しています。

§ ポリオ・プラス活動の地域別・年次別推移

（I）南・北アメリカ大陸

米国ワシントンDCにある米国保健機関（PAHO）が、ラテンアメリカでポリオを根絶する計画を発表したのは、1985年5月でした。当時のR I 会長だったメキシコのカルロス・カンセコ博士は、ロータリーがこの計画に参画するよう要請されました。これはPAHOが、米州だけでなく、地球全体でポリオを根絶するのにも協力する、と宣言したからです。

1984年にはすでにR Iはハイチとボリビアでこのプログラムを発足させてポリオ根絶に乗り出していました。そして1985年までには、さらにベリーズ、コスタリカ、エルサルバドル、ホンジュラス、グアテマラ、パナマ、それにセントルシアでもポリオ根絶プログラムを実施するために、ロータリー財団が190万ドルを超える資金を提供しています。

元R I 会長カンセコ博士は、この頃を回想して、「2年間と期限を限ってWHOはR Iをそのメンバーに加えてくれましたが、私に言わせれば、R Iは見習いメンバーでしかなかった。R IがWHOの仕事に本当に役に立つのを立証するためには、実例をいくつか示す必要がありました。そこでR Iは、パラグアイ（小さな国で子供の数は60万人を超えない）で、〔全国免疫デー〕（NID）を実施し、大成功しました。この結果たった1年で、それまで100人も出ていたポリオの新患者が、実質的にはゼロまでになったのです。パラグアイでのNIDは、その後5年間続けられ、やがてこの国はポリオから解放されました。さらに、5歳以下の子供が1,500万人以上もいるメキシコで同じ試みを提案し、メキシコ大統領に会い、大統領もこのアイデアに賛成しました。1986年1月末に、たった1日で1,300万人もの子供にポリオの免疫が与えられました。このプロジェクトには50万人を超えるボランティアが参加しました。以上の結果1990年10月に出た新患者がメキシコでの最後のポリオ患者と認定され、メキシコでのNIDは終了しました。

パラグアイとメキシコでの成功は、夢でしかなかったポリオ根絶へのプログラムの発端となり、その結果、R I に国際ポリオ・プラス実行グループが組織され、そのメンバーが訓練を受けました。実行グループの5人のメンバーは専門家と協力して、ロータリークラブ向けと、全国向けの「免疫の手引き」を作製しました。これは、世界中のロータリアンを指導し、鼓舞するポリオ・プラス活動のガイドブックとなりました。

ペルーのロータリアンは、これに沿った活動を実証しました。1986年にN I D を3回実施し、この国のロータリアン2,300人のうち2,000人以上が、子供たちへのワクチン投与やN I D の広報活動に協力しました。

1988年5月、WHOの世界保健総会は、ラテンアメリカでのポリオ根絶運動の進展と、R I の努力を認め、2000年までに地球上からポリオをなくす、との決議を採択しました。

R I の免疫プログラムは、対象とする国に応じて、さまざまな形態をとっています。ラテンアメリカのロータリアンは、免疫を普及させるための大規模な広報作戦を展開し、少なくとも100万点のポスター、パンフレット、道路に掲げる横断幕、カレンダー、ステッカー、帽子、さらには、ショッピングバックまで用意し、さらに、ワクチン輸送のための魔法瓶やアイスボックスや氷といった基本的な物資の提供も行いました。

1987年、ボリビアのロータリアンは、自国の保健省に協力して免疫を実施するよう説得しました。これまで、国と民間の保健関係者の間にはチームワークは殆ど存在しなかったのです。

1988年、グアテマラでのN I D が失敗に終わったとき、この国のロータリアンは保健省に免疫計画と政府の各部門への予算配分を仕上げるまでは、追々のポリオ・プラス助成金をロータリー財団に申請しない、と通告しました。グアテマラの各R C が政府の各部門の肩代りをして、免疫プログラムへの援助と管理の双方を行いました。

1990年2月に、エクアドルでN I D が実施されましたが、あるR C は地元

の保健機関員を説得して、当時予定されていたストライキを中止させたこともありました。

その他ラテンアメリカの各国でN I D が引続き実施された結果、1994年9月29日にP A H O (米州保健機関)の本部で、次のような歴史的な発表が行われました。「培養されたものではないポリオ・ウイルスの伝播は、米州では遮断された」と。

ロータリアンは、ラテンアメリカからポリオをなくすのに不可欠な存在でした。しかしラテンアメリカでポリオが根絶されましたが、ロータリアンや公衆衛生の分野でロータリアンのパートナーとなっている人は、今後も世界中の子供たちにポリオの免疫を与えつづけて行くことになります。

(II) 西太平洋地域

既のべたようにアメリカ大陸では1990年に入ってポリオの発生がなくなり、1994年にアメリカ大陸でのポリオ根絶が宣言されています。しかし、西太平洋地域では、いまだに、ポリオの根絶には至っていない状況でした。1992年には1,890人のポリオ患者発生の報告されていますが、なかでも中国1,287例、ベトナム490例、カンボジア98例の発生がありますが、ポリオの最初の接種国であるフィリピンでは根絶寸前の7例と激減しています。ポリオ・プラス募金活動は、すでに終了宣言されましたが、西太平洋地域は、まだワクチンが不足しており、西太平洋地域での日本および日本のロータリアンの参加が必要となっていました。

12億人の人口がある中国でポリオを根絶することは急務であり、ポリオ・ワクチン購入費援助要請が、前年度(1993年)のR I アジア第1・第3ゾーンのガバナー会に対して行われ、ガバナー会は八千数百万円を拠出し、日本の外務省は厚生省からの要請にもとづきODAの形で2億円支出、U N I C E F、WHO、中国政府と共同し約12億円のポリオワクチン代を投じて、中国におけるワクチン一斉投与(N I D)が、1993年12月5日と、1994年1月5日に実施されました。当時のロータリー財団管理委員長の口

イス・アビー氏に対し、中華人民共和国政府から、同国で1月5日に行われる第2回目のN I Dを視察してほしいという招請状が届きました。アビー委員長には、ロータリー財団管理委員の中島治一郎氏と、ポリオ・プラス実行グループ（アジア地域）コーディネーター平岡正己氏が同行いたしました。またC D C（アメリカ厚生省疾病対策センター）を代表して、アメリカ公衆衛生局副長官アラン・ヒンマン博士も、この第2回N I Dを視察いたしました。ロータリー財団はこれら2回のN I Dに200万ドルを拠出しており、これに加えて日本のロータリアンは75万ドルの募金を集めました。さらに日本政府から200万ドル、民間筋から30万ドルが寄付されています。

世界で最も大きい人口を抱える中国は、西太平洋地域でポリオを根絶するためにきわめて重要な存在です。当時この地域でポリオ患者の発生が報告されている国は、中国以外には4ヶ国すなわち、ベトナム、カンボジア、ラオスおよびフィリピンしかありません。1日に1億人もの子供にポリオ予防接種を実施することにより、記録的な成功を中国でおさめることが出来ました。

西太平洋地域に近いスリランカの北部では、当時は政府軍と反政府ゲリラの間で激戦がつづけられていましたが、そうした厳しい状況にもかかわらずロータリアンは政府を援助して、スリランカで最初のN I D（National Immunization Day）を1995年11月4日と12月9日に実施しました。スリランカは、東南アジアをポリオから解放するのにあたって非常に重要なカギを握っています。東南アジアのポリオ感染の多くが、この国で起きているからです。この間にロータリアンは、中国をはじめ、インド、ベトナム、ラオス、カンボジア、インドネシア、ミャンマー、タイ、フィリピンの各国でN I Dを実施し、1990年に入ってから6年間で、東南アジアでのポリオ感染は82%も減少しています。

1997年12月と1998年1月に東南アジア8ヶ国で一斉にN I Dが行われ2億

4,500万人以上の子供にポリオワクチンの接種が行われました。これは、世界の5歳以下の子供たちの38%を占める国々すなわち、バングラディッシュ、ブータン、インド、ミャンマー、ネパール、タイ、パキスタンと中国で行われました。同地域で1988年に保健担当官に報告されたポリオ患者の発生件数は25,711件でしたが、1997年には、1,970件しか記録されていない程になりました。WHOでは、1998年に、ブータン、モルディブそしてスリランカで、3年以上ポリオの発生が見られないと発表しています。インドネシア、タイ、ミャンマーではポリオ撲滅の境界線に達していると考えられます。

1994年全米大陸でポリオ撲滅の宣言が行われましたが、2000年10月29日に京都で西太平洋地域ポリオ根絶京都会議が開催されこの地域では、1997年3月にカンボジアでの患者を最後に、自然界のポリオ・ウイルスに感染した患者の発生例の報告がないことが確認されました。同日に、「この地域でのポリオ根絶」が宣言されました。これは、南米・北米大陸につづいて世界で2番目のことです。

（Ⅲ）インド

中国について、世界で2番目に人口の多いインドにおいてはじめてN I Dが行われたのは、1995年12月9日です。インド政府はN I Dを、「パルス・ポリオ予防接種（P P I = PULSE POLIO IMMUNIZATION）」（注：パルスとは、何度も繰り返し予防接種日を実施することで、インドでの独特の呼び名）と呼んでいます。その日は、インドの32の州と全国に9つある連邦直轄領のすべてで、保健関係者と、10万人ほどのロータリアン、その配偶者、インターアクター、ローターアクター、それにインナー・ホイールのメンバーを含むボランティアが、ポリオとの大規模な闘いを行いました。

P P Iがいかに重要であるかをロータリアンに強調するために、ルイス・ジアイR I会長エレクトがムンバイ市での予防接種活動に参加し、貧困地

区を訪れてワクチンを子供たちに与え、ロータリアンやボランティアを激励しました。「今度のPPIは、私が目撃した中で最大規模の共同作業で、その規模の大きさと、一目で成功したことが分かることに大きな感銘をうけました。」と、ジアイ会長エレクトは感想をのべています。元RI会長で1995-96年度ロータリー財団管理委員会副委員長のラジェンドラ・ザブー氏は「今日はインドとロータリーが大成功をおさめた日です。この大成功は、1,600ものインドのRCが10年近くにわたって予防接種のために献身的に努力した成果です」と述べています。インドではすでに、1986年にインド南部のタミールナドゥ州に出されたロータリー財団の最初の補助金260万ドルで経口ワクチンとワクチン保管・輸送のためのコールドチェーンの設備が購入され、予防接種実施のための社会動員に必要な費用がまかなわれました。1991年にRIは、「乳幼児保護日」の設定に尽力し、完全に予防接種が完了しない乳幼児に重点をおくことで通常の予防接種を補充することを目的としました。1994年10月には、デリーの40のRCが大規模なポリオ予防接種運動を行い、140万人ほどの子供が、ポリオワクチンの投与を受けています。その結果1987年から1993年までの間に、報告されたポリオ感染者数は84%も減少しています。

1995年12月の第1回NIDについて、1996年1月に第2回のNIDが行われました。ロータリーはワクチン用に500万ドルを寄贈し、全国50万ヶ所のワクチン投与所で2日間にわたって働いた200万人のボランティアのうち、10万人を調達しました。最初のNIDでは、8,700万人の子供達が、そして第2回目のNIDでは、9,300万人の子供達がワクチン投与を受けました。さらに1997年12月のNIDでは1億2,900万人の子供にワクチンが接種され、ついで1998年1月18日に1億3,300万人に対して、ワクチンが接種されました。以上の結果次のように報告されています。1994年にインドで発生したポリオの新患者数は4,791人を数えましたが、1997年には、1,300人に減少しています。その後もインドではくりかえしNIDが行わ

れましたが、1999年10月から2000年1月までに毎月行われたNIDでは合計1億3,000万人に接種が行われました。2000年1月のNIDには、RID2640のロータリアンやその家族がRID3140のロータリアンと協力して、ムンバイ市でのNIDに参加したことは記憶にも新しい所です。

(IV) 東ヨーロッパ

1989年までの東ヨーロッパは、ソビエト連邦の強い影響力の下にあったため、ポリオに関しての詳しいデータを得ることが出来ませんでした。しかし1994年になっても、ヨーロッパ全体の人口の41%は、ポリオがまだ根強く残っている国で暮らしていました。特に患者が多いのは、ロシア連邦、コーカサス地方の各共和国、それにトルコです。この地域やその周辺に住む人々をポリオから守るために、RIのロータリー財団管理委員会は、1993年4月にRI会長に対して中欧および東欧諸国・ポリオ・プラス・プロジェクト委員会(CEP)を設置することを勧告しました。そしてロータリー財団管理委員会は、CEPの活動に一般社会の人々を動員するために5万ドルの補助金を承認しました。CEPの第1回会議は、1993年11月19日と20日、スイス・チューリヒのヨーロッパ/アフリカ担当事務局で開かれました。

この会議では、次のような目的と優先事項が討議され、採択されました。

- (1) 中欧と東欧でポリオを根絶させるのに協力すること。
- (2) ポリオが根絶した国を増やすのに協力すること。
- (3) 良質なワクチンの提供に協力すること。
- (4) 予防接種率を上げ、これを維持すること。
- (5) ヨーロッパ中で一般社会の人々をより動員すること。

RIのロータリー財団委員会は、1994年10月に行われた会議で「MECACAR作戦」を討議、検討した結果490万ドルのポリオ・プラス補助金の支出を決めました。「MECACAR作戦」は、WHOのヨーロッパ3地区(地中海沿岸諸国と、カフカスと中央アジアの諸共和国)で3年間にわたって実施

される大規模な免疫活動です。これら3地区に含まれている国は、アルメニア、アゼルバイジャン、ブルガリア、グルジア、トルコ（以上コーカサス地域）、カザフスタン、キルギス、タジク、トルクメン、ウズベク（以上中央アジア）、アフガニスタン、イラン、イラク、ヨルダン、レバノン、パキスタン、パレスチナ、シリア（以上地中海沿岸東部地域）の各国です。1995年の3月から5月までにこれら18ヶ国では地元の保健当局がワクチン接種を行ない、6,300万人の子供たちに同時にワクチンが与えられました。自分たちの国でポリオが根絶されたら、もう心配はなくなった、という誤った印象を持っている人は沢山います。しかしどこかの国でポリオ・ウイルスが伝播しつづける限り、現在ポリオがなくなっている国にもウイルスは必ず侵入してきます。その一例として、何年間もの間ポリオから解放されていたオランダが、1992年から93年にかけて悲痛な体験をしました。

MECACAR 作戦に取り組んだのは大難題でしたが、多数の子供達を対象に、各地で同時に行われた免疫デーでは、5歳以下の子供たちの95%にワクチンが与えられるという、前例のない成果が達成されました。このチームプレーの調整役を担当したのは、各国の保健省、WHO、UNICEF、RI それにアメリカ国務省の国際開発庁でした。ロータリー財団はメカカル作戦に総額で530万ドルの資金を提供しました。この作戦についてUNICEFのリチャード・リード氏はこう語っています。「公衆衛生の歴史上で指折りの素晴らしい出来事でした。文化や国の違いを乗り越えて、大規模な運動を一つにまとめあげて実施するのが可能であることを、この出来事が明らかにしたからです。」ロータリーの援助が大成功した実例の一つはトルコで、メカカル作戦で達成されたこの国の免疫率は93%でした。トルコはその前年（1994年）、27件のポリオ感染を報告していますが、これはヨーロッパ地域での最も大きな数でした。トルコでNIDが実施されたのはこの時のメカカル作戦が最初でしたが、これが実現出来たのは、主としてロータリーの支援があったからです。WHOのジョージ・オブラペン

コ博士はこう言っています。「ロータリーの援助がなかったら、NIDは実現していなかったでしょう。ロータリーが資金を提供されたので、トルコ保健省もこの国で最初のNIDを実施するのに同意したのです。」。トルコの保健相ドガン・バラン博士からB. ハントレー1994-95年度RI会長にあてられた手紙には、次のようなくだりがあります。「確固とした支援をいただいたことに対して、国際ロータリーに深い謝意を表明いたします。このたびのNIDの成功で“超我の奉仕”の原則に基いたロータリーの伝統的な考え方の素晴らしい実例が、また一つ生まれました。」

トルコのポリオ・プラス全国委員会のセティン・デミルマン1994-95年度委員長は、「この4月と5月に行われたNIDでは、5歳以下の640万人の子供たちにワクチンが与えられました。NIDが実践された場所は、保健所、移動免疫実施施設車、臨時の免疫実施施設、学校などで、回教の寺院すらも活用されました。1995年にトルコで発生したポリオの新患者は2人と報告されていますが、いづれもNIDが実施される以前の発病です。」とのべています。

1995年の時点で、WHOに加盟しているヨーロッパ諸国50ヶ国のうち、ポリオからの解放を証明されているのは33ヶ国にすぎません。メカカル作戦は、この後、1996年と1997年にNIDを繰り返すことが重要でした。

(V) アフリカ

サハラ砂漠以南のアフリカ諸国のポリオ・プラス委員会委員長が初めて一堂に会し、ポリオ・プラス・プログラムの総合的な実施計画、直面している種々の問題、そして将来に向けての行動計画の討議のため、37ヶ国の代表が1994年2月7日から9日までケニアのナイロビでの会議に集まりました。

1988年以降40%もポリオの発生は減少していたものの、1993年にアフリカ大陸で発生したポリオ患者は、5万人と推定されています。そしてアフリカ大陸全体での予防接種率は50%あたりで止まっていました。この委員会

の委員長たちの見解が一致したのは、いまの段階でアフリカが直面している障害と課題には、政治的激変、戦争、貧弱な社会資本、干ばつの脅威、通信の途絶などがあるという点でした。さらに公衆衛生面での最優先事項として、麻疹、マラリア、エイズといった病気があげられました。そして、この会議で集中的にとりあげられた問題に、一般社会の人々を動員するに当たっての総合的な計画、ポリオなどの病気のサーベイランス、ワクチンの供給、利用できる人的・物的資源などがありました。会議の議長を務めた元R I理事で現ロータリー財団管理委員のJ. B. マジャグベ氏（ナイジェリア）は、次のような結びの言葉をのべました。「われわれが開いたのは、アイデアの有益な交換を可能にした画期的な会議でした。いま一度互いに励まし合い、ポリオ・プラスの課題に挑戦する決意を再確認しました。」WHOのポリオ担当医療官は、「ポリオ撲滅に対する最大の脅威は、戦争と内紛です」とのべています。1995年アフリカでのポリオ患者発生件数は、アンゴラ（152件）、チャド（192件）、エチオピア（199件）、ナイジェリア（439件）、ザイール（735）と、世界の発生件数の中でも上位を占めています。そして全世界を合計すると、ポリオ発生症数約7,000件と報じています。アンゴラでは、平均寿命は男性が44歳、女性が48歳です。1995年のポリオ予防接種率は33%で世界で最も低い国です。しかしこうした怖じけづかせるような統計にもかかわらず、地元のロータリアンはポリオの予防接種をやめませんでした。アンゴラのルワンダRCの26人の会員は、政府の指導者や、WHO、UNICEFそして地元の有力者と手を組んで、1995年8月と9月にはじめてNIDSを実施しました。結果は期待をはるかに超えたもので、アンゴラの5歳未満の小児約200万人に免疫接種が行われました。アンゴラでの初めてのNIDSで、統一した全国規模の運動がなかった前年に比較して、2倍の70%の達成率となったことをアンゴラのロータリアン達は誇りをもって報告しています。

1997年11月エチオピアで、同国史上はじめてとなる2つの画期的な出来事

があります。1つは全国予防接種日（NIDS）であり、もう1つは、RI会長主催平和会議です。グレン・キンロスRI会長が、11月14～15日の第2回RI会長主催平和会議の会場として、エチオピアを選んだのは、「エチオピアは世界で最も貧しい国の1つです。エチオピアやソマリアあるいはルワンダでの出来事は、道義的意味合いはもちろんのこと、実際的な見地からしても世界中に対して影響力をもつのです」と会長は説明しています。こうしてエチオピアでの第1回のNIDSが行われました。スーダンは、ポリオとの闘いでは多くの問題を抱えています。長年の内戦で、国の保健システムや生活基盤が崩壊しています。スーダンでは1997年1月にNIDSを実施していますが、通常の予防接種率がわずかに20%にしかならず、また南スーダンはNIDSに参加出来ませんでした。「オペレーション・ライフライン・スーダン」を通じて、UNICEFは、同年の2月と3月に南スーダンでNIDSを実施しました。その時5才以下の約60万人の幼児にワクチンが投与されました。また1999年に100万人以上に接種が行われました。

カナダのウイルブリフト・ウイルキンソンRI財団管理委員会委員は、1997年9月11～22の間、ケニアとタンザニアを訪問し、ポリオ・プラス活動を実施しました。ケニアは国内不安、多数の難民など多くの難問を抱えています。1回目のNIDSでは、合計370万人の子供たちに予防接種が施されたと保健関係者は語っています。さらにウイルキンソン氏は、1997年9月19日にタンザニアを訪れ、タンザニアの全国ポリオ・プラス委員会のアンディ・チャンデ委員長と、キルンビアでの2回目のNIDSに参加しています。この時のNIDSでは対象者の96%にあたる560万人以上の子供たちが接種を受けました。

1997年を終った時点で、ポリオ・ウイルスは依然として3つの特定地域に患者を発生させています。西中央アフリカでは、ナイジェリア、コンゴ民主共和国。アフリカ東部では、エチオピア、スーダン、ソマリアなどです

1985年以来、全世界で報告されているポリオ発症例は、90%も減少しているにもかかわらず、その費用を負担出来ない国々のために、1999年にさらに約1億5,000万ドルの追加資金が必要となっています。

エチオピアで行われた1997年11月のN I D sの期間中には40ヶ国から集まった約300人のロータリアンがポリオ・ワクチン投与を手伝いました。この期間中にわづか96時間で推定850万人の5歳以下の子供達にワクチンが施されたと言われています。アフリカでは3番目に人口の多いエチオピアで、1996年に264件あったポリオ発症例が、1997年には19件と、激減しています。このことは、ポリオ撲滅活動におけるロータリーのポリオ・プラス・パートナー・プログラムの果たしている重要な役割に明るい光を照らします。ポリオ・プラスの募金活動は1988年に終わっていますが、ポリオ・プラス・パートナー・プログラムは、世界中のロータリアンがポリオ撲滅活動をスムーズに継続出来ることを可能にしているのです。

エチオピアでの全国予防接種キャンペーンが成功したので、第5170地区（米国カリフォルニア州）が先頭に立ってN I D sのモデルを西アフリカの人口1,800万人のガーナで試みました。1998年5～6月にかけて行われたN I D sは、ガーナでは第3回目でその基金として第5170地区の会員が17.5万ドルの基金を募り、R Iのロータリー財団が同額の補助金を与え、合計35万ドル以上の資金が使用されました。さらに第5170地区のポリオ撲滅活動はガーナだけでは終わらず、残余金の54,000万ドルを1999年1月と2月に予定している西アフリカのリベリアでの第1回目のN I D s支援に割りあてています。これで西アフリカでまだN I D sを実施していない国は、シェラレオネとリベリアだけになりました。

リベリアの治安が安定されたのは比較的新しく、7年間続いた内乱から解放されたのは、つい最近です。内戦の国の社会基盤がほとんど破壊され、教育や保健施設は使えなくなりました。こうした地域が、2000年までにポリオ撲滅を目指すのであれば、各国の担当者とロータリーの活動が不可欠

なものとなっています。

アフリカで人口の最も多い国、ナイジェリアは、世界で予防接種率の最も低い国の1つとなっています。WHOでは、ナイジェリアの子供達は、28%しか完全なポリオの予防接種を受けていないと推定しています。（この国でのワクチン接種は1996年より実施されています。）接種率の低い原因の1つに、撲滅活動に参加する男性（父親）が少ないことを、保健関係者は挙げています。自分の子供達の健康に対する父親の関心を高めるために、米国国際開発局、ナイジェリア・サッカー協会、WHO、R Iが協力して、「チャレンジ・カップ」と名付けたスポーツイベントを通じてN I D sへの参加を呼びかけました。1999年4月～5月にかけて、初めて戸別的にワクチン投与を行い、1,500万人の子供に接種が行われました。ナイジェリアにおいても、2000年末までにポリオの根絶を目的としたポリオ・プラス活動が継続されています。

マダガスカル（インド洋にあり、アフリカ東南部）においても1999年にN I D sが実施されています。さらにエリトリア（エチオピアとスーダンの間の国）において、1999年12月にN I D sが実施されています。ソマリアはアフリカでも一番激しい内戦がつづいています。そのためN I D sの実施には多くの障害がありますが、1999年に20万人の子供への接種が行われたと報告されています。

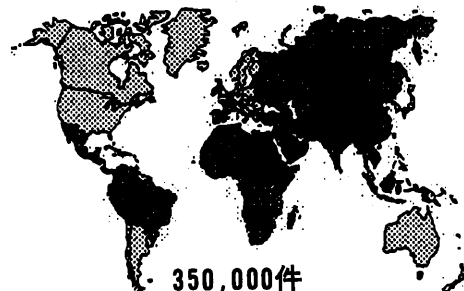
アフリカ各国ではまだポリオの発生は減少しながらも継続しています。これからもポリオ・プラス活動は手を緩めることなく実施されなければなりません。アフリカでなおポリオ患者の発生率の高い国は、アンゴラ・コンゴ・エチオピア・ナイジェリアの4ヶ国です。

最後に、2つの表を示してまとめたいと思います。

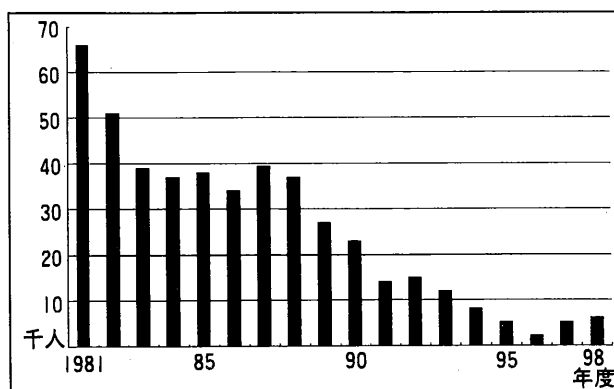
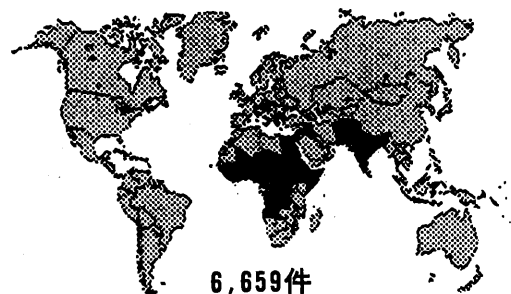
ポリオ撲滅の推移 (1988年と1999年の比較)

■ ポリオ発生国

1988年のポリオ発生地帯



1999年のポリオ発生地帯



報告された年度別ポリオ発生数

年 表

はじめに (95-96 R I会長H.ブラウン氏の言葉より)

1985年にスタートしたポリオ・プラスは、単一事業としては国際ロータリーの歴史で最大規模のものである。ポリオ・プラスは、必要欠くべからざる人道的な仕事であり、より安全で、健康な世界を将来の世代に厳粛に約束するものです。ポリオ・プラスを介して、私たちは公衆衛生の歴史での最も重大な目標の1つを達成するのに協力しているのです。

その目標は、ポリオの撲滅です。人類がこれまでに撲滅出来た疫病はただ一つ、天然痘だけです。私たちが協力すれば、ポリオを人類史上で2番目の撲滅出来た疫病とすることが出来ます。

ポリオ・プラス募金の開始

1985年 R Iは創立80周年を迎え、ポリオ・プラスを3-H (保健・飢餓追放および人間尊重)の一部としていたものから、別個のプログラムにする。

1986年 ポリオ・プラス募金活動開始2億3,000万ドルの募金 (日本はこのうち49億円) —政府補助金を加えて2億4,800万ドルがポリオ・プラス基金に組入れ。

1988年 WHO総会で、2000年までにポリオ撲滅の目標を採択、宣言し、R Iはこの宣言を支持。

1995年 R I規定審議会は、関係諸機関と協力、調整した上で、2000年までにポリオを撲滅し、2005年までにその証明をすることをR Iの最優先事項とする決議を採択。

ポリオ・プラス活動の地域別・年次別推移

●南・北アメリカ大陸

- 1984年 RIはハイチとボリビアで、すでにポリオ・ワクチンの予防接種開始
- 1985年 ベリーズ、コスタリカ、エルサルバドル、ホンジュラス、グアテマラ、パナマ、それにセントルシアで、ポリオ根絶プログラム実施（190万ドルの資金提供）
- 1986年 1月末メキシコで1,300万人の子供に接種(1990年10月最後の患者) 同年ペルーで、3回のNID（全国免疫デー）（1991年8月ペルー最後の患者）
- 1987年 ボリビア
- 1988年 グアテマラにおいてNID
- 1990年 エクアドル
- 1994年9月29日 南米アメリカ大陸でポリオ根絶PAHO（米国保健機関）発表「米州において培養されたものではない自然界のポリオ・ウィルスの伝播は遮断された。」

●西太平洋地域

- 1992年 ポリオ患者発生数
- | | |
|-------|--------|
| 中国 | 1,287例 |
| ベトナム | 490例 |
| カンボジア | 98例 |
| フィリピン | 7例 |
- フィリピンが最初のポリオ接種国
- 1993年12月5日} 中国でのNID開始、この計画には、中島治一郎PG、
1994年1月5日} 平岡正己PGが参加
- 1995年11月4日・12月9日 170万人に接種、スリランカにおいて最初のNIDその他、中国・インド・ラオス・カンボジア・ミャンマー・

タイ・フィリピンでNID、この6年間のNIDで東南アジアでのポリオ感染者は82%も減少している。

- 1997年8月30日、9月3日
インドネシアで1,200万人の子供に接種
中国で6,000万人
パキスタン2,500万人
バングラディシュ2,000万人
ミャンマー540万人
タイ530万人
ネパール390万人
ブータン40万人に接種を行う

1998年 第5回目NIDs

1998年以後 ポリオ発生なし

2000年10月29日 京都会議「西太平洋地域ポリオ撲滅宣言」

●インド

- 1995年10月 最初のNID 8,700万人の子供に接種
- 1997年12月 1億2,900万人に接種
- 1998年1月 1億3,300万人に接種 ポリオ患者数1994年4,791人
- 1997年 1,300人に減少
- 1999年-2000年 1億3,000万人に接種
- ポリオ発生1998年1,934人
- 1999年 1,001人

●東ヨーロッパ

- 1995年4月7日「世界保健の日」
- 1995年 世界でなお毎年11万人のポリオ患者発生 MECCAR作戦
地中海周辺とカフカス地方と中央アジアの諸共和国に対して3ヶ年の免疫活動同年3月-5月のNIDアルメニア・アゼルバイシ

ン・ブルガリア・グルジア・トルコ（以上コーカサス地方）カザフスタン・キルギス・トルクメン・ウズベク（以上中央アジア）アフガニスタン・イラン・イラク・ヨルダン・レバノン・パキスタン・パレスチナ・シリア（以上地中海沿岸東部地域）各地で同時に免疫作戦（6,000万人）5才以下の子供の95%にワクチン投与

●アフリカ

1994年2月 第1回ポリオ・プラス全アフリカ会議開催

サハラ砂漠以南のアフリカ諸国のポリオ・プラス委員会委員長が一堂に会する。（1988年以降ポリオ患者は40%減少していたが、1993年アフリカでのポリオ患者の発生は約5万人と推定。）

1995年 アフリカ全体でポリオ・ワクチンの接種率は約33%

N I D キャンペーン1995年8月9日に実施

「アフリカからポリオ追放」

これによりポリオ接種率70%まで上昇

ネルソン・マンデラ氏

WHOのポリオないアフリカ委員会の委員長に就任。今後18ヶ月でサハラ以南の29のアフリカの国々でN I D s の実施を約束（当時アフリカでなお12,000の小児感染者）

アフリカ各国でのN I D s の実施

エチオピア1997年11月

5才までの子供850万人に接種（ポリオ発生1996年264人1997年19人）

スーダン1997年1月接種率20%

ケニア1997年370万人に接種

タンザニア1997年9月第2回目N I D s

ガーナ1998年5～6月

5才以下の子供95%に接種

アンゴラ（中央アフリカ）当時800人近いポリオ患者発生

1999年（7～9月）3回のN I D s 実施（1999年なお約1,000人の患者発生）

1999年以降 ナイジェリア（アフリカで人口一番多い）

当時28%の接種率（1996年より実施）

サッカーのチャレンジカップイベントを通じてN I D s 1999年4～5月初の戸別にワクチン投与キャンペーン1,500万人に接種ナイジェリアにおいて、2000年末までにポリオ撲滅を目的とする。

リベリア1999年1～2月N I D s

スーダン1999年「ライラライン・スーダン作戦」100万人に接種

（その間敵対中の南北スーダンが一時的に休戦）

マダガスカル（インド洋アフリカ東南）1999年に接種行う

コンゴ共和国 1999年800万人に接種行う

エリトリア（エチオピアとスーダンの間の国）1999年12月N I D s 実施

ソマリア

この国におけるN I D s は一番内戦の阻害をうける。20万人に接種行う
アフリカでは、アンゴラ・コンゴ・エチオピア・ナイジェリアの4ヶ国がポリオ患者の発生率が高い。

●現在ポリオ撲滅状況〔（ ）内が伝染の最終消滅国〕

全米1991年（ペルー）

西大西洋1997年（カンボジア）

ヨーロッパ1998年（トルコ）

●2000年10月29日

西太平洋地域ポリオ根絶京都会議

1997年3月 カンボジアでの患者を最後に、自然界のポリオ・ウイルスに感染した患者の発生例の報告はない。「この地域でのポリオ根絶」を宣言（南米・北米大陸地域に続いて世界で2番目）

インド・ムンバイ市でのポリオ ・ワクチンの一斉投与に参加して

－2005年ポリオ撲滅宣言をめざして－

(岸和田東ロータリークラブ会報より) 中井 義尚

(1)はじめに

私が国際ロータリーに参加したのは、1976年です。以来24年間、当初はロータリーは何をする団体かという素朴な疑問を抱いていましたが、ロータリーは世界の国々の多くの不幸な人達に、いろいろな面で援助の手を差しのべる平和活動のボランティア団体であるという認識が次第に深まり、私自身も何か貢献できる方向があれば協力したいと常々考え、努力してまいりました。日常の診療という自分の仕事を通じての努力以外に、日本だけでなく全世界につながる奉仕という名の協力をロータリーが行っているという実情に、自分も携わりたいという気持ちがいつもありました。この24年間色々な形で自分なりにロータリー活動に協力してまいりましたが、今回、平成12年1月23日(日)にムンバイ市での幼少児たちへのポリオ・ワクチン一斉投与に、ロータリー2640地区の73人と共に、野会長、私と娘の3人もボランティアとして参加したことは、私にとって未知の世界にいる恵まれない子供たちとの初めての接触であり、ワクチンを投与しながらポリオの地球上からの撲滅が1日も早く成就するよう祈る思いでの参加でした。国際ロータリーとしては、ロータリー創立100周年にあたる西暦2005年に、地球上からのポリオ患者が撲滅されたことを宣言することを目標にしていますが、こうしたロータリー活動のポリオ撲滅への世界中のボランティアのこれまでの努力をまとめてみることにいたします。

(2)ポリオ撲滅運動の足どり

ポリオすなわち急性灰白髄炎は、ポリオ・ウイルスに罹患している患者の糞便からの経口感染によって伝播し、重症例は随意筋の麻痺と筋萎縮を伴う不幸な後遺症を残す恐ろしい疾病です。日本でも1970年前半頃までは未だポリオの発症者が存在していましたが、ワクチンの接種が完全に行われた70年代後半には患者の発生は皆無になっているのは周知の通りです。しかしまだ世界には多くのポリオ患者の発生に苦しんでいる国々が残り、ロータリーとしても各国にある世界保健機関と協力してポリオの撲滅運動に1985年に着手いたしました。

その事の起りは1978年に国際ロータリーとフィリピン政府が力を併せて、フィリピンの児童にポリオの予防接種をするプロジェクトを実践したことに始まります。このプロジェクトからポリオ・プラスというプログラムが発展しました。ポリオ・プラスにはポリオの他に麻疹・ジフテリア・破傷風・百日咳・結核の予防接種が含まれています。ポリオの予防接種が可能だということは、ジョナス・ソーク博士が1953年にポリオ・ワクチンを開発したことに始まります。さらに1954年にアルバート・セービン博士が経口生ワクチンを開発し、これによって長期間ポリオに対する免疫性が持続し、ウイルスの伝播が阻止されるようになりました。1960年代までに先進国で殆どの幼児を対象にワクチン接種が行われましたが、1980年になっても予防接種を受けたのは世界の児童の20%に過ぎない状況でした。問題は開発途上国での予防接種に必要な費用と、輸送の確保がネックとなりました。ロータリーはフィリピンのロータリアンの努力で予防接種活動が成功を収めたのを教訓に、すべての国の児童に予防接種するワクチンを提供するという大事業に乗り出したわけです。その後全世界のロータリアンの協力で莫大な額のそれらに対する費用が拠出され、WHO、全米保健機構、UNICEF、99ヶ国の政府の保健省と協力して、ポリオ・ワクチンの投与をロータリーが行っています。そして西暦2000年をポリオ撲滅年の目標

としてきました。1994年9月には、地球の西半球からポリオ・ウイルスの伝播が消滅したことをポリオ撲滅証明国際委員会が宣言しましたが、現時点で南アジア（インド・パキスタン・バングラディシュ・ネパール）と、アフリカの国々（ナイジェリア・コンゴ民主共和国・エチオピア・スーダン・ソマリアなど）でのポリオの発症は、減少の一途をたどりながらも続いているのが現状です。1998年度には全世界で、当初のポリオ発症者数と比較して90%も発症例は減少しています。しかし今述べた国々では、打ち続く内戦や難民の流入によって、例えばアンゴラでは1998年に800例ものポリオ患者の大量発生が報告され、2000年にポリオ撲滅の可能性が殆どなくなっています。

(3)N I D s によるポリオ撲滅運動への接近

N I D s とは、National Immunization Daysの略号で、全国ポリオ・ワクチン一斉接種日のことです。ポリオを撲滅するため、ロータリーをはじめ世界の関係機関は協力してN I D s によるポリオ接種を企画し、1996年頃から開始いたしました。何故ワクチンの一斉投与が必要であるかは、ワクチン投与を受けた子供の便から、ワクチンを受けなかった子供への感染が考えられるからです。一定の地域内で1人のもれもなくワクチンを同時に投与することが、ポリオ発生を防ぐ最も大切な手段になります。

これまでロータリーが参加してきた世界各国でのワクチン一斉投与の実績を少し述べてみます。WHOの発表によりますと、1996年に正式に報告されたポリオ発症者の件数は3,997例で、前年に比べて43%減少しています。インドネシアでは1997年8月末のN I D s で1,200万人以上の子供たちに予防接種が行われました。アフリカのスーダンでは多くの問題を抱えています。長年の内戦で国の保健システムや生活基盤が崩壊しています。そのスーダンで1997年1月にN I D s を実施していますが、接種率は20%に過ぎなく、特に南スーダンではN I D s にも参加できませんでした。ケニアも国内不安や多数の難民などの難問を抱えていますが、1回目のN I D s

で370万人の子供への接種が終わったとされています。中国ではN I D sの成功で1999年には発症者がなかったと伝えられていますが、地球規模でポリオ撲滅の成功を収めるには、ポリオ・ウイルスの伝播をモニターすることが極めて重要で、世界各国のロータリアンや医師が多大の努力を払っているわけです。

南アジアでは、インド・バングラディシュ・パキスタン・ネパールでの発症がまだみられますし、先述した西・中央アフリカではナイジェリア・コンゴ、東アフリカではエチオピア・スーダン・ソマリアでのポリオ患者が続いています。アフリカで人口が一番多い国のナイジェリアは、世界で予防接種率の最も低い国の一つです。その原因の1つに、撲滅活動に参加する男性(父親)が少ないことを保健関係者はあげています。そこで関係者は「チャレンジ・カップ」と名付けたスポーツイベントを通じてN I D sへの参加を呼びかけ、サッカーの試合を通してN I D sの情報を広め、かなりの成功を収めたと言われています。南アジア地域でも1997~98年度に中国6,000万人、インド1億3,000万人、パキスタン2,500万人、バングラディシュ1,800万人、ミャンマー540万人、タイ530万人、ネパール390万人、ブータン40万人に予防接種が行われています。アフリカのガーナでも1998年に行われたN I D sで、5才以下の子供たちの95%に接種が行われたと報じられています。こうした国際ロータリーのポリオ・ワクチン予防接種活動に対して、UNICEF主催の「国民の進歩1999」の報告会が同年7月に開催され、その中でロータリーとUNICEFの協力ですでに10億人以上の子供たちにポリオの予防接種を行うことが出来たことに対し、ユニセフ事務局長が感謝の意を表明しています。国際ロータリーは全世界のロータリアンの協力により、これまでに米貨で3億4,000万ドル以上の資金援助を行っており、世界中の民間寄付者の中で第1位を占めているのです。

(4)2000年1月23日(日)のインド全国でのN I D sについて

以上述べてきましたように、現時点でまだポリオ・ワクチン接種を必要と

している国々がかなり残されていますが、国際ロータリー2640地区(大阪府大和川以南全域と和歌山県)として、私達の近隣諸国でワクチン接種のお手伝い出来る国の中から、インド・ムンバイ市でのN I D sに協力参加することになりました。この計画は私達のロータリー地区とインドの3140地区のロータリアンの協力によって行われることにいたしました。日本のロータリー地区としては、すでに京都を中心とした2650地区のロータリアンが、これまでのN I D sに2回にわたって参加しているようで、私達の地区の参加が日本として3回目の協力ということになります。

ムンバイ市は以前はボンベイと呼ばれ、アラビア海に浮かぶ島々からなる町で、西インドの玄関口として貿易の中心地であるだけでなく、インド経済と文化の首都でもあると言われています。大富豪が集まる都市である一方で、1,400万人の人口のうち約20%(300万人)もの人々がホームレスの生活を営む巨大なスラム街を抱えています。ムンバイ空港に着陸するまでの10数分間、起伏のある山肌を埋め尽くすような貧しい小屋の集落が続く景色に驚きましたが、空港に着いてその周辺のスラム街の貧しさと人の多さは凄まじい限りでした。インドに着いての歓迎は、花のレイより先にたくさんのお金が差し出す手でした。後でインドの人から言われたのですが、インドでは乞食にお金をあげないようにする事が彼らの自立のために大切なことなのだという話です。空港からホテルまでの約1時間半、夕方のラッシュ時で広い道路を埋め尽くした車の群は、交通の規則がこの国にはあるのかなのか、無茶苦茶な割り込みやクラクションの強烈な響きや、夜というのにヘッドライトも点灯しない車などで、我々のバスも何回も急ブレーキをかけるので、娘などかなり気分が悪くなった程で、これはその後の滞在中、バスでの移動時の一番の悩みでした。宿泊したTAJMAHALホテルは素晴らしいホテルで、有名なインド門が玄関の前方にあり、海岸に面した堂々とした建物でした。食事も大変美味しく、ただ生水だけは絶対に飲めないという注意以外は快適なホテルライフでした。

今回のインド国内でのN I D sは、10月、11月、12月とすでに3日間行われており、今回の1月23日を含めて約1億3,000万人へのワクチン接種が行われることになるとの話で、その人数の多さに驚きながら、このN I D sにボランティア参加した意義を実感いたしました。

ホテルからバスで約1時間揺られた所で、ムンバイ3140地区のロータリアンやボランティアの方々の出迎えを受け、数人ずつのグループに分かれてインドの人の車に分乗して10数分走り、そこからは猛烈なスラム街の中に入り込んで行きました。たくさんの人山で、大勢の大人、子供らの出迎えを受けました。

GHATOKOPALという地域で、数千人いやもっとと思われる人達の汚い小屋が密集している所でした。私はメ野会長と娘の3人チームで、インドのロータリーの次期会長の女性と、若いドクターが案内役をして下さいました。私達のポリオ接種は4カ所のブースで行いましたが、その小屋は2～3坪位の狭くて薄暗いもので、3人で一斉にというわけにはゆかず、1人ずつ交代で行わざるを得ませんでしたので、たくさんの子供に接種する余裕はありませんでした。しかしこれだけの貧しさの中でも幼い子供らの目は美しく輝いていて（インドの人達は大変きれいな顔立ち）一人一人がこれからポリオなどに罹患しないよう祈る思いで、小さい口に2～3滴のワクチンを接種し続けました。感心したのは一応名簿があって、1人ずつチェックが行われていたので、こんなスラム街にも戸籍があるの(?)と思って驚きましたが、1人の脱落者があってもポリオ発生の可能性を残すことになりまますから、インドのロータリアンを中心にした方々の周到な準備と計画の推進は並大抵の苦勞ではなかったかと感銘いたしました。今回の投与人数や時間を考えれば、私達には単なる体験をさせていただいたに過ぎないようなものだったというのが実感ですが、私達の参加とポリオ接種を知らせる横断幕があちこちに吊り下げられていたことや、スラムの住人が口々にポリオ、ポリオと騒いでいたのをみると、彼らにポリオに対する認

識を高める宣伝効果の面では貢献したのではないのでしょうか。私もボランティアとしてこのような強烈な体験は初めてのことでしたし、同行の娘も日本での生活の素晴らしさと賛沢さを反省する気持ちを実感したようで、体験した者にしか分からない、この国の貧しい一面が強く印象に残りました。貴重な体験をし、こうしたイベントに参加できたことの感動もさることながら、自分らの日常の豊かさをかえって罪悪感にすら感じる旅でありました。

国際ロータリーが計画している2005年のポリオ撲滅宣言が行われるためには、2002年以降3年間のポリオ発症者0人というモニターの確認が必要で、そのためにもこの1～2年間のN I D sの繰り返し実施が必要となるでしょう。今回のN I D sの参加と、全世界のポリオ・ワクチン接種の現況を述べ、ポリオの撲滅を心から祈りつつ稿を終わります。

（資料の多くは「ロータリーの友」を参考にしています。）

TOMO WINTER 2000

Polio Eradication Day

Yoshihisa Nakai
(Kishiwada East)

NIDs is the abbreviation for National Immunization Days, the days on which everyone in a particular country is to be immunized against polio. Countries like Japan, the United States and those in Europe have wiped out the disease, but there are still places of rampant epidemic in Africa and South Asia: India, Pakistan and Bangladesh.

For the past three or four years, Rotary has worked with national organizations and the World Health Organization (WHO) to set aside specific days on which everyone will be vaccinated. In January, 1999, 73 Rotarians and their families from District 2640 (Wakayama and south part of Osaka) participated for the first time in this project in India.

The population of Bombay is, reportedly, 14 million. Twenty percent of those 14 million are homeless and the actual sight of this poverty is something that goes beyond our imaginations to conceive. Everyone of the participants was dumbfounded in shock.

We got on a bus and took a back-and-forth swaying ride of about an hour to meet with the local Rotarians of District 3140. We then broke up into groups of a few people each, got into their cars, and entered a slum district that I can describe only as

ghastly and horrific. Several thousand people are concentrated in one corner of the area called Ghatokopal, all of them living in small huts 100 to 150 square feet in area. Into the mouths of the children there we placed oral polio vaccine.

Even in the depths of, that abject poverty, the eyes of those children shone bright and beautiful.

A strange feeling came over me when I realized that even in these slums, there were family registries listing every person. Who would believe it? But this aided us greatly in ascertaining exactly who was and who was not vaccinated, for the failure to let even one fall through the net would allow the possibility of infection by the polio virus. The rigorous work done by the Indian Rotarians begun from the very first stages of preparation was absolutely extraordinary.

Banners had been strung up to tell the people that we were participating in the distribution of the vaccine. The children were all shouting "Polio, polio . . ." It seemed that the preparatory publicity was very effective. How moved I was seeing the dedication of those local Rotarians.

The NIDs of the next two years are very important because they will pave the way to the declaration in 2005 that polio has been eradicated. First though, will be a three-year-period of verification after 2002 that the number of people infected with polio is definitely down to zero. We are dedicated to eradicating polio from the earth in commemoration of Rotary's 100th anniversary. (Otorhinolaryngology.)

Translated from the June 2000 issue of The Rotary-No-Tomo.

あとがき

1985年から2000年に至る間の全世界におけるR Iのポリオ・プラス活動を通覧してきました。これらの記述はすべて、ロータリーの友より引用したものです。現時点でまだポリオが全世界のすみずみから根絶されるには到っていません。2005年のポリオ撲滅宣言までには、この1～2年の関係者のさらなる努力が必要です。われわれロータリアンは、手を緩めることなく、ポリオ・プラス・パートナープログラムを通じてなお一層の協力を行わねばならないと思われます。

今後のポリオ・プラス活動の推移と全世界でのポリオ根絶への報告につきましては、これからのロータリーの友を注目して行きたいと思います。さらにポリオが撲滅されたあと、ロータリーは何をテーマとして取り組んで行くべきでしょうか。

著者ロータリー歴

- 1976年（昭和51年）6月5日創立メンバー
プログラム委員会委員
- 1977年（昭和52年）国際奉仕委員会委員
- 1978年（昭和53年）国際奉仕委員会委員
- 1979年（昭和54年）国際奉仕委員会委員
- 1980年（昭和55年）世界社会奉仕委員会委員長
- 1981年（昭和56年）国際奉仕委員会委員長
- 1982年（昭和57年）青少年奉仕委員会委員長
- 1983年（昭和58年）ロータリー財団委員会委員長
- 1984年（昭和59年）ロータリー情報委員会委員
- 1985年（昭和60年）ロータリー情報委員会委員長
- 1986年（昭和61年）米山奨学委員会委員長
- 1987年（昭和62年）国際奉仕委員会委員
- 1988年（昭和63年）副会長・クラブ奉仕委員会委員長
- 1989年（平成元年）会長エレクト
- 1990年（平成2年）会長
- 1991年（平成3年）直前会長
- 1992年（平成4年）ロータリー情報委員会委員長
- 1993年（平成5年）ロータリー情報委員会委員
- 1994年（平成6年）職業分類委員会委員長
- 1995年（平成7年）会員選考委員会委員長
職業分類委員会委員（併任）
- 1996年（平成8年）米山奨学委員会委員長
職業分類委員会委員（併任）
- 1997年（平成9年）人間尊重委員会委員
- 1998年（平成10年）会員選考委員会委員

1999年（平成11年）人間尊重委員会委員長

2000年（平成12年）会員増強委員会委員

R I 第2640地区委員会

1992年 地区ロータリー規定情報委員会委員

1993年 地区ロータリー規定情報委員会委員長

1994年 地区ロータリー規定情報委員会委員長

1995年 地区ロータリー友情交換等委員会委員長

1996年 地区ロータリー友情交換等委員会委員長

1997年 地区ロータリー世界友情交換委員会委員長

1998年 地区ロータリー国際交流委員会委員長

2000年 地区大会推進委員会委員長

正 誤 表

「ポリオ・プラス活動15年のあゆみ」

発行日 2001年（平成13年6月）

発行者 R I 国際ロータリー 第2640地区
地区大会事務局

住 所：〒596-0054 岸和田市宮本町27-1

泉州ビル2F ガバナー事務所

TEL 0724-32-2640

FAX 0724-33-2641